

# 2010年から2019年までの10年間に児童生徒が読書した作品

-全国読書感想文コンクール入選の読書対象作品の集計及び5月読書作品の統計-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学図書館情報学研究会 公開日: 2021-06-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 米谷, 茂則 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/21822">http://hdl.handle.net/10291/21822</a>

## ＜実践・事例報告＞

### 2010年から2019年までの10年間に児童生徒が読書した作品 —全国読書感想文コンクール入選の読書対象作品 の集計及び5月読書作品の統計—

米谷 茂則

全国学校図書館協議会が毎年実施している「5月読書調査」の10年分を「自由読書」として集計した。また、同協議会と毎日新聞社がおこなっている全国読書感想文コンクールの全国入選読書対象作品の10年分を「考える読書」として、フィクションとノンフィクションに分けて集計した。小学校下学年児童の考える読書としてフィクションでは『しげちゃん』が、ノンフィクションでは『絵本 いのちをいただく』が最も多く入選の読書対象となった。小学校上学年児童が自由読書で最も多く読書したのは『日本の歴史』であり、考える読書のフィクションでは『かあちゃん取扱説明書』が、ノンフィクションでは『十歳の君へ』が最も多く入選の読書対象となった。同様に中学生の自由読書では『カゲロウデイズ』、考える読書では『夏の庭』と『わたしはマララ』であり、高校生の自由読書では『ソードアート・オンライン』、考える読書では『人間失格』と『夜と霧』であった。

#### はじめに：本稿の目的

本稿は、これまでの児童生徒の読書史の続きである。これまで小学校、中学校、高等学校と校種別にして、1950年代、1960年代と年代ごとに児童生徒がどのような作品を読書してきたのかについて、提示してきた<sup>1)</sup>。本稿はその続きであり、2010年から2019年までの10年分を三校種とも揃えて提示する。校種のうち小学校は下学年（1・2・3年生）と上学年（4・5・6年）に分ける。

児童生徒の読書作品のうち、全国学校図書館協議会と毎日新聞社の共同調査として、毎年6月に全国の小学校上学年、中学校、高等学校から各校種とも3千数百人から4千人前後の児童生徒を抽出し、5月に読んだ本についてアンケートした集計結果を、雑誌『学校図書館』（全国学校図書館協議会）11月号にて公表している。そのようなことにて、本稿タイトルには「5月読書作品」と記した。公表された2010

年から2019年までの作品の統計を取り、児童生徒が読みたいと思う作品を読書しているということにて、筆者として以下では、「自由読書」としてとらえていく。

また、全国読書感想文コンクール入選感想文の読書対象作品をフィクションとノンフィクションに分けて<sup>2)</sup>、2010年から2019年までの集計をした。こちらは、全国読書感想文コンクールのタイトル通りに「考える読書」としてとらえていく。

既出の拙論および本稿は、児童生徒の読書史の理解、児童生徒に長く読み継いでいってもらいたい作品の選択、各学校種の学校図書館の選書及び配架の参考としての意義がある。

#### 1. 2010年から2019年までに児童生徒が読書した作品

児童生徒が読書した作品を提示する前に、2010年から2019年までの10年間の主な出来事について、学校教育に関連させた数点について概略を記す。

第一には、2011年3月11日の東日本大震災では、小学生、中学生、高校生、特別支援学校児童生徒を

2021年1月22日受理

よねや しげのり 明治大学兼任講師

含め多くの人命が失われた。また、同日の東京電力福島第一原発における全電源喪失による重大事故では多くの住民が避難を余儀なくされた。児童生徒では避難先の学校や地域でのいじめ被害もあった。

また、この10年間では2014年には広島土砂災害、2016年には熊本地震、2017年には九州北部豪雨、2019年には台風と大雨被害などと、自然災害が相次いだのであった。

第二に、2011年10月に大津市において中学2年生がいじめを苦にして自死した。対応を巡っては学校、学級担任、市教委が批判を受けた。そして、この事件が誘因となって「いじめ防止対策推進法」が、国会において2012年に成立した。しかし、20世紀からの課題であるいじめは克服、防止できていない。

第三には、学力について、20世紀の終わりから21世紀の初めを境にして再度、学力向上競争の時代となった。経済協力開発機構(以下、OECD)の生徒の学習到達度調査(以下、PISA)については、21世紀の初めのうちに文部科学省(以下、文科省)の学力調査が復活し、それだけではなく都道府県なども実施し出した。国語科では単元学習としての調べ学習において、小学生のうちから自分の考えをも書かせるというところまで進展した。

OECDのPISAは3年ごとの実施で2010年以後は2012年、2015年、2018年に実施された。とくに2018年の実施結果では、読解力の順位が下がったため、各方面から批判があった。それまではテストが課したデータを図やグラフなどにて表現した非連続テキストに十分に対応できていない、ということが言われてきた。2018年に順位が下がった主原因はコンピュータを用いたテストへの不慣れとの説が強い。日本の学校教育におけるパソコン配置の遅れも指摘された。文科省のパソコンひとり一台政策へとつながった。

第四に、読書関連では、「子どもの読書活動推進法」にもとづく政府の読書活動推進計画が、平成25(2013)年から第三次基本計画が実施され、平成30(2018)年からは第四次基本計画が実施されている。学校教育関連では、第三次では読書指導の充実によって読書習慣を確立すること、障がいのある子どもの読書活動の推進が主な課題となった。この2点は現状でも現場における課題であることに変わりはない。第四次では特に高校生の不読率を下げるのが課題となっている。また、読書活動の取り組みとして全校一斉の読書活動、児童生徒相互の図書

紹介、読書会などが例示された。

以下、2010年から2019年までに児童生徒が読書した作品と、どのような作品なのかについて若干の考察をしていく。「考える読書」に示した「表」中の「入選対象回数」とは、2010年から2019年までに当該作品が全国コンクールの入選対象となった回数である。また、「自由読書」にて示した「累計読書人数」とは、2010年から2019年までの5月調査にて児童生徒が読書したと回答した累計数である。

## 1.1 小学校下学年児童の読書

下学年の自由読書のアンケートはない。

### 1.1.1 考える読書 フィクション (表1)

	作 品	入選対象回数
1	室井滋 作/長谷川義史 絵 『しげちゃん』(新1)	14
2	いとうみく 作/佐藤真紀子 絵 『かあちゃん取扱説明書』(新)	13
3	やまだともこ 作/いとうみき 絵 『まほうのじどうはんばいき』	12
4	浜田桂子 作『てとてとて』	11
5	いとうみく 作/つじむらあゆこ 絵 『おねえちゃんって、もうたいへん!』(新)	10
5	キム・フォップス・オーガソン文/エヴァ・エリクソン絵『おじいちゃんがおばけになったわけ』2)	10
7	草場一壽 作/平安座資尚 絵 『いのちのまつり「ヌチヌグスージ」』	9
7	瀧村有子 作/鈴木永子 絵 『ちょっとだけ』(新)	9
9	及川和男 作/長野ヒデ子 絵 『いのちは見えるよ』	7
10	梨屋アリエ 作/菅野由貴子 絵『ココロ屋』3)	6
10	宗正美子 作 原案/いもとようこ 文 絵『しゅくたい』	6
10	宮川ひろ 作/小泉るみ子 絵『しっぱいにかんぱい』(新)	6

1) 作品名の右の(新)は、この年代から上位となったという意味である。ただし、出版が2010年以後ということではない。2009年以前という場合もある。以下の上学年、中学校、高等学校の場合も同じである。

2) 外国作品について、翻訳者は省略している。以下も同じである。

3) 『ココロ屋』は、全国読書感想文コンクール2012年度の中学年課題図書である。カウントは2013年度以後のものである。コンクールでは小学校は低学年(1年と2年)、中学年(3年と4年)、高学年(5年と6年)に分かれている。

読書感想文全国コンクール入選の読書対象回数が多かった作品、考える読書のフィクションとしては、他と比較して群を抜いた作品はなかった。数作について解説をする。『しげちゃん』は、2000年から2009年までの10年間でも入選対象回数が上位であった作品であり、女子なのに「しげる」という名前の由来を知った作者の話である。この年代からの新しい入選対象作品として『かあちゃん取扱説明書』は、自分の母親の取扱説明書を書いた子どもの話である。『おねえちゃんって、もうたいへん!』は、主人公が母親の再婚相手の子と姉妹になった話である。他にも『ちょっとだけ』を含めて、「おねえちゃん」がテーマの作品3作が入選対象となっている。

下学年児童のフィクションでは、姉妹を話題の中心とした作品、手、名前、母親と子供のやり取り、先祖、全盲者の出産などがテーマとなっている作品などが多く考える読書の対象となっている。

### 1.1.2 考える読書 ノンフィクション(表2)

作 品		入選対象回数
1	坂本善喜 原案/内田美智子 作/魚戸おさむ 他 絵『絵本 いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日』(新)	18
2	得田之久 文/たかはしきよし 絵『ぼく、だんごむし』	10
3	アンリ・ファーブル 著『ファーブル昆虫記1』	7
4	中川ひろたか 作/大島妙子 絵『歯がぬけた』	6
4	長谷川義史 作 絵『おへそのあな』	6
6	荒井真紀 文 絵『あさがお』(新)	5
6	日野原重明 文/村上康成 絵『いのちのおはなし』	5
6	内田美智子 文/諸江和美 絵/佐藤剛史 監修『いのちをいただく』(新)	5
6	中川ひろたか 文/村上康成 絵『おおきくなるっていうことは』	5
6	やぎゅうげんいちろう 作『おへそのひみつ』	5
6	皆越ようせい 写真 文『ダンゴムシみつけたよ』	5

1) 『ファーブル昆虫記』は多くの出版社から出ている。どの昆虫を対象としている作品の読書であるのかは略す。

『絵本 いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日』は、食肉センターに勤める人の仕事を通した動物の命をテーマとした作品である。この作品は6番目の活字版『いのちをいただく』の絵本版である。『ぼく、だんごむし』は表記作者のものであり、「だんごむし」をテーマとした作品は他の複数の作

品にて10回の入選対象となっている。『あさがお』も表記作者特定の作品である。『いのちのおはなし』の著者である日野原重明氏は1911年生まれで2011年には100歳になっていた。2017年に亡くなった。「いのち」とは、「きみたちがつかえるじかん。それがきみたちのいのちなんですよ。」と小学生に伝えている作品である。

ノンフィクションのテーマとしては、「(ヒトの)あかちゃん」が6点で6回、「昆虫」が5点で5回、「ダンゴムシ」が表以外の5点で5回、「はやぶさ」が4点で5回の入選対象となっている。

この年代の特徴としては、『いのちをいただく』の活字版と絵本版以外は、1990年代まで及び2000年代(「2000年代」は2000年から2009年までのことであり、以下も同じである)にもテーマともなっていたもので、上位において新しいテーマによる入選はない。上位のテーマとしては命、身体とその成長、動物、昆虫、植物などである。

## 1.2 小学校上学年

### 1.2.1 自由読書(表3)

作 品		累積読書人数
1	『日本の歴史』(複数の巻からなる(注3))	1,277
2	原ゆたか 作 絵『かいけつゾロリ』(シリーズ)	1,113
3	J.K.ローリング 作/ダン・シェリンジャー 画『ハリー・ポッター』(シリーズ)	688
4	松谷みよ子 責任編集『〇〇のレストラン』(「怪談レストラン」シリーズ)	521
5	『〇〇のサバイバル』(科学漫画サバイバルシリーズ) (新)	461
6	コナン・ドイル 作『シャーロック・ホームズ』(複数の巻からなる)	362
7	石崎洋司 作『黒魔女さんが通る』(シリーズ)	343
8	伝記『織田信長』(数社から出ている)	307
9	杉山亮 作/中川大輔 絵『まっぴん名探偵』1) (シリーズ)	301
10	伝記『ヘレン・ケラー』(数社から出ている)	291

1) 『まっぴん名探偵』は、「あなたも名探偵シリーズ」の一点である。他にも『いつのまにか名探偵』、『もしかしたら名探偵』などがあり、調査結果では、それらの書名が記されている。

読書調査が雑誌『学校図書館』11月号に公表される結果は学年、男女別に17番目までである。例えば上表のように10年間の集計にて上位となった作品でも、ある年度のある学年において18番目以下



の読書数であった場合の読書人数は公表提示されないで、上表の数値には含まれないということになる。従って、実数は表以上であるかもしれないという参考の数値である。またこの調査では、著者は示されないのであるが、特定できる場合は提示した。中学校、高等学校の自由読書についても同じである。

「シリーズ」ものについては、『学校図書館』誌上において、例えば上表の『かいけつゾロリ』や『ハリー・ポッター』などは、巻ごとにその書名が示してある。本稿においては、それぞれの第何巻が最も読書が多かったのかについての書名は、略してある。

「複数の巻からなる作品」については、『学校図書館』誌上においては第何巻の読書であるのかは示している場合と示していない場合がある。本稿ではどれも書名のみ提示している。これらの点については中学校、高等学校の自由読書についても同じである。

(表3)で11番目以下は、羅貫中 原作『三国志』(複数の巻からなる)、L.M.モンゴメリー 著『赤毛のアン』(シリーズ)と続いている。

一番目となった『日本の歴史』<sup>4)</sup>は数社から出ている「学習マンガ」である。巻数は出版社によって違っている。この5月読書の調査においては「マンガ」は除外なのであるが、児童にとって「学習マンガ」は普通の読書と同じである。その人気には揺るぎがない。『〇〇のサバイバル』シリーズはオールカラー科学漫画である。キムジョンウオ 作/ハンヒョンド 絵『ロボット世界のサバイバル』などで、作者と絵は作品ごとに違っている。韓国が元の出版である。伝記『織田信長』と11番目以下と示した『三国志』も「マンガ」が含まれていないとは言い切れない。

『かいけつゾロリ』は、上学年では4年生中心の読書であったが、新しい作品が出ると5年生、6年生も読む。マンガに近い作品でもある。

(表3)の伝記『織田信長』と『ヘレン・ケラー』は、数社から出ている。伝記としては表以下『エジソン』、『ナイチンゲール』、『徳川家康』と続いている。さらに以下を提示したとしても出てこないのが、日本人女性の被伝者である。100カウント以上となる日本人女性の被伝者はいない。

シリーズものでもなく、複数の巻からなる作品でもなく、伝記のように数社から出ている作品でもない、全くの単独の作品として最多の読書数の作品は、サラ・ネイサン/セラ・ローマン原作『アナと雪の女王』であった。

どのような作品をということでは、上位では歴史、伝記、ファンタジー、探偵もの、怪談などである。

## 1.2.2 考える読書 フィクション(表4)

	作 品	入選対象回数
1	『かあちゃん取扱説明書』(前出)1(新)	16
2	M・エンデ 作『モモ』	9
3	レオ・バスカーリア 作/島田光雄 画『葉っぱのフレディーーいのちの旅』	8
4	高木敏子 作/武部本一郎 絵『ガラスのうさぎ』	7
5	梨木香歩 著『西の魔女が死んだ』	5
5	本田有明 著『願いがかなうふしぎな日記』(新)	5
5	滝井幸代 作/三木謙次 絵『レンタルロボット』(新)	5
5	『赤毛のアン』(前出)	5
5	重松清 著『きよしこ』(新)	5
10	湯本香樹実 著『夏の庭 The Friends』	4
10	梨屋アリエ 作/菅野由貴子 絵『ココロ屋』(新)	4
10	富安陽子 作/高橋和枝 絵『盆まねき』(新)	4
10	重松清 著『くちぶえ番長』(新)	4
10	柳月美智子 著『十二歳』(新)	4
10	岡田淳 著『びりっかすの神様』	4

1) (前出)とは、例えば『かあちゃん取扱説明書』でいえば、既に小学校下学年の「考える読書 フィクション」(表1)にて作者などを提示しているということである。以下、同じである。

一番目の『かあちゃん取扱説明書』以外は、入選対象回数が一桁であり、集中の度合いが少ない。特記として、重松清は表の二作以外にも『きみの友だち』が2回の入選対象となっている。どのような作品かということでは、(新)と記したこの年代からの入選対象作において、いろいろな場数を踏みながら少しでも成長する少年少女が主要なテーマとなっている。

## 1.2.3 考える読書 ノンフィクション(表5)

	作 品	入選対象回数
1	日野原重明 著『十歳のきみへー九十五歳のわたしから』	34
2	今西乃子 著/浜田一男 写真『犬たちをおくる日』(新)	26
3	今西乃子 著/浜田一男 写真『心のおくりびと東日本大震災 復元納棺師』(新)	13
4	『いのちをいただく』(前出)(新)	10
5	『いのちのおはなし』(前出)(新)	9

6	ヴィヴィアナ・マツァ 著『武器より一冊の本をください:少女マララ・ユスフザイの祈り』(新)	8
7	乙武洋匡 著『五体不満足』	5
7	こうやまのりお 著『ピアノはともだち奇跡のピアニスト辻井伸行の秘密』1(新)	5
7	すずらんの会 編『電池が切れるまで こども病院からのメッセージ』	5
10	『絵本 いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日』(前出)(新)	5
10	米澤鐵志 語り/由井りょう子 文『ぼくは満員電車で原爆を浴びた11歳の少年が生きぬいたヒロシマ』(新)	5

1)『ピアノはともだち』は、全国読書感想文コンクール2012年度の高学年課題図書である。カウントは2013年度以後のものである。

以下、4回の入選対象として、ホセ・ムヒカ 述/くさばよしみ 編/中川学 絵『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』(新)、鎌田實 著 安藤俊彦 絵 ピーター・バラカン 英訳『アハメドくんのいのちのリレー』(新)、椎野直弥 著『ぼくは上手にしゃべれない』(新)を含めて6作がある。

一番目『十歳の君へー九十五歳のわたしから』の著者である日野原重明氏の作品では、下学年でも『いのちのおはなし』が上位となっている。『犬たちをおくる日』は、飼い主を選べない犬たちの命を考える作品である。『心のおくりびと』は、2011年3月11日に起きた東日本大震災時の復元納棺師の記録である。

ノンフィクションなのでテーマごとに見ていくと、(表5)の『武器より一冊の本をください』のマララさん関連では、その評伝などが5回の入選対象となっている。原爆に関連したテーマの作品は表の『ぼくは満員電車で原爆を浴びた』以外にも7点8回の入選対象があり、宇宙関連では、野口聡一 著『宇宙においてよ』と若田光一、岡田茂 著『宇宙がきみを待っている』を含め4点7回の入選対象となっている。

『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』は同一作者の作品であり、同書以外でもホセ・ムヒカ関連の作品は8回の入選対象となっている。

他にもアンネ・フランクについては、自著の『アンネの青春ノート』やシュナーベル 作『悲劇の少女アンネ』など評伝を含めると6回の入選対象となっている。ヘレン・ケラーについては、自伝と伝記を含めると4回の入選対象となっている。

全体としてのテーマは生きるということ、命の尊

さということである。留意しておきたいのは、小学校上学年児童の上位では、ノンフィクションの入選対象回数が多いということである。

小学校上学年における自由読書と考える読書の関連について記す。自由読書における累計読書人数が10番目の伝記『ヘレン・ケラー』が、考える読書のノンフィクションにおいて自伝と伝記での全国入選が4回となっている。他には上位において、自由読書と考える読書の関連はない。自由読書は楽しむ読書と考えてよい。

### 1.3 中学生の読書

#### 1.3.1 自由読書(表6)

	作 品	累計読書人数
1	じん(自然の敵p)『カゲロウデイズ』(シリーズ)(新)	823
2	『ハリー・ポッター』(前出)	542
3	金沢伸明 著『王様ゲーム』(シリーズ)(新)	419
4	Honey Works 原案/藤谷燈子・香坂菜里 著『告白予行練習』1(シリーズ)(新)	343
5	東川篤哉 著『謎解きはディナーのあとで』(シリーズ)(新)	314
6	川原礫 著『ソードアート・オンライン』(シリーズ)(新)	291
7	有川浩 著『図書館戦争』2(新)	289
8	宗田理 著『ぼくらの七日間戦争』3(新)	262
9	山田悠介 著『リアル鬼ごっこ』(シリーズ)(新)	252
10	住野よる 著『君の膵臓を食べたい』(新)	247

1)『告白予行練習』は、タイトルによって藤谷燈子の単著の作品、香坂菜里の単著の作品、二人の共著となる作品とがある。

2)『図書館戦争』は、毎年の『学校図書館』誌上において公表されるときには、シリーズ物としては提示されていない。表では『図書館内乱』、『図書館危機』を含む読書数である。

3)『ぼくらの七日間戦争』は、毎年の『学校図書館』誌上において公表されるときには、シリーズ物としては提示されていない。表では『ぼくらの天使ゲーム』、『ぼくらの大冒険』、『ぼくらのデスマッチ』、『ぼくらの最終戦争』も「ぼくらシリーズ」として含めてカウントしている。

表以下は、新海誠 著『君の名は』(新)、坪田信貴 著『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』と続いている。ここまでに提示のない作品ではあるが、2012年では、女子1・2・3年生の一番目が小畑友紀 著『僕等がいた』

であった。2016年は女子1・2・3年生の一番目が有川浩著『植物図鑑』であった。

一番目となった『カゲロウデイズ』は解説が必要な作品である。ミュージシャン、音楽プロデューサーであるじんのボカロロイド<sup>9)</sup>による楽曲から小説ができたボカロ小説であり、マンガとアニメにもなっているメディアミックスの作品である。『王様ゲーム』は、ホラーのケータイ小説からの作品である。『告白予行練習』はボカロ小説である。

『ソードアート・オンライン』はオンライン小説から文庫になった作品で、バトルファンタジーである。『リアル鬼ごっこ』は自費出版からのホラー作品である。

10作のうち9作までが新しく上位となった。どのような作品かということではファンタジー、恋愛、命をかけたゲーム、探偵ものなどである。

### 1.3.2 考える読書 フィクション(表7)

	作 品	入選対象回数
1	『夏の庭 The friends』(前出)	20
2	太宰治 著『人間失格』	16
3	重松清 著『青い鳥』(新)	12
4	『西の魔女が死んだ』(前出)	11
4	百田尚樹 著『永遠の0』(新)	11
6	三浦しをん 著『風が強く吹いている』(新)	10
6	『モモ』(前出)	10
8	夏川草介 著『神様のカルテ』(新)	9
8	三浦しをん 著『舟を編む』(新)	9
8	芥川龍之介 著『羅生門』	9
8	三浦綾子 著『塩狩峠』	9

『夏の庭』は2000年から2009年までの10年間では40回の入選対象となっていて他の作品を圧倒した。今回2010年からの10年では入選対象回数は半分となったが、一番目となった。1990年代から入選対象となっている。主な登場人物は小学六年生三人組とおじいさんである。

重松清『青い鳥』が、この年代で新しく上位となったことは特筆である。(新)となっているのは、前の年代から入選対象となっただけなのだが、この年代に初めて上位となったということである。重松清については、この先の項にでも取り上げる。三浦しをんの作品が2作上位となっていることは注目である。

もう一点の特筆は、上位には入っていない『君た

ちはどう生きるか』であり、第64回コンクールにて2回の入選対象となっている。ただしこれは活字版ではなく、吉野源三郎 原作/羽賀翔一 漫画という作品である。全国入選にあつては、感想文の対象としている作品の出版社が記してあり、これはマガジンハウス社のものであることからマンガ版であることが分かる。このマンガ版の作品が学校、市区町村、都道府県と代表となって全国コンクールへと進んだことは、大いに評価したい。この先、原作のあるマンガ版だけではなく、オリジナルのストーリーマンガが同じようになっていくとよい。

どのような作品かということでは、(新)では、うまく話せない中学校国語の教師、太平洋戦争下の特攻兵、医療、辞書づくりにのめりこむ人々の話など多様であり、人としての生き方を考えるテーマが多い。

### 1.3.3 考える読書 ノンフィクション(表8)

	作 品	入選対象回数
1	マララ・ユスフザイ、クリスティーナ・ラム 著『わたしはマララ: 教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』(新)	5
1	『武器より一冊の本をください: 少女マララ・ユスフザイの祈り』(前出)(新)	5
3	『心のおくりびと』(前出)	4
4	アントニオ・G・イトウルベ 著『アウシュビッツの図書係』(新)	3
4	『犬たちをおくる日』(前出)(新)	3
4	『いのちをいただく』(前出)(新)	3
4	石川拓治 著『奇跡のリンゴ』	3
4	辺見庸 著『もの食う人びと』	3
4	喜多川泰 著『「手紙屋」私の受験勉強を変えた十通の手紙』(新)	3

10番目の作品は入選対象回数が2回で、多数あるので略す。

2000-2009年の全国入選となった中学生の読書では、フィクションでの『夏の庭』や『西の魔女が死んだ』だけではなく、ノンフィクションでも『“It” (それと呼ばれた子)』、『生きてます、15歳。』、『五体不満足』、『だから、あなたも生きぬいて』と、積極的に「生」を主張する作品が上位となったことが特徴であった。また、10番目の作品でさえ5回の入選対象となっていた。2005年にコンクールのフィクションとノンフィクションの区別がなくなったのであるが、それ以前の入選対象回数が効いていたのである。

2010-2019年では、(表8)のように3回以上の入

選対象作を提示しても9作品である。(前出)となっている『武器より一冊の本をください』以下の4作品は、小学校と共通の入選対象となっている。(表8)の9作品で見ると(新)印をつけた6作品が2010年以後の上位入選対象作品である。それらが、どのような作品であるかという点、内戦状態の中で教育を求めた少女、いのちをいただく、生命をおくる、アウシュビッツの中を生き抜いた女性などであり、生命の尊厳がテーマとなっている。

中学生における自由読書と考える読書の関連について、自由読書における累計読書人数が10番目の『君の臓腑を食べたい』が、考える読書のフィクションにおいて(表7)以下で6回の全国入選となっている。他には上位において、自由読書と考える読書の関連はない。『君の臓腑を食べたい』は楽しむ読書としての自由な読書から、感想文を書く考える読書へと移行させた生徒がいたと考えられる。

## 1.4 高校生の読書

### 1.4.1 自由読書(表9)

	作 品	累計読書人数
1	『ソードアート・オンライン』(前出)(新)	337
2	『図書館戦争』(前出)(新)	282
3	『君の臓腑を食べたい』(前出)(新)	227
4	湊かなえ 著『告白』(新)	208
5	『王様ゲーム』(前出)(新)	198
6	『カゲロウデイズ』(前出)(新)	163
7	『永遠の0』(前出)(新)	117
8	『植物図鑑』(前出)(新)	110
9	榎宮祐 著『ノーゲーム・ノーライフ』(シリーズ)(新)	107
10	『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』(前出)(新)	103

毎年『学校図書館』誌上における公表では、高等学校にあつては、17番目が同数の時は17作品以上公表されるときもあり、あるいは17番目まで公表されない年もあつた。

以下、成田良悟 著『デュラララ!!』(新)(シリーズ 100 カウント)、『神様のカルテ』(前出)(新)(93 カウント)、『謎解きはディナーのあとで』(前出)(新)(88 カウント)と続いている。

(前出)とあるのは、中学校と同じ読書作品である。上位10作品の中でも(シリーズ)と記していない『君の臓腑を食べたい』、『告白』、『永遠の0』、『植物図鑑』、『学年ビリのギャルが〜』の5作品は単行

本としてのものである。そのうちでも有川浩の作品が2点入っていることが注目である。

『告白』は2010-2019年の10年間、雑誌『学校図書館』における毎年11月の読書カウントの公表でずっと読書が続いた作品である。(表9)には出てこない作品であるが、2011年は岩崎夏海 著『もし高校野球の女子マネージャーがドラッグの「マネジメント」を読んだら』が男子1年、2年、3年生とも一番目であった。2018年は吉野源三郎 著『君たちはどう生きるか』が2年生の男女とも一番目であった。自由読書では、この作品が活字版なのかマンガ版の読書なのかは不明である。

高校生では、中学生の上位と比較すると読書数が少ないことがわかる。これは、アンケートをした5月に一冊も読書をしていないという高校生が多いということからきている。

どのような作品なのかについてはゲームファンタジー、ミステリー、バトルゲーム、恋愛もの、太平洋戦争下の特攻兵の話などである。

### 1.4.2 考える読書 フィクション(表10)

	作 品	入選対象回数
1	『人間失格』(前出)	19
2	『舟を編む』(前出)(新)	11
3	F・カフカ 著『変身』	10
4	遠藤周作 著『海と毒薬』	8
4	『神様のカルテ』(前出)(新)	8
6	夏目漱石 著『こころ』	7
6	『夏の庭 The Friends』(前出)	7
8	『永遠の0』(前出)(新)	6
8	安部公房 著『砂の女』	6
8	『青い鳥』(前出)(新)	6
8	大岡昇平 著『野火』	6
8	『塩狩峠』(前出)	6
8	遠藤周作 著『沈黙』	6
8	ダニエル・キイス 著『アルジャーノンに花束を』	6

上表のうち(前出)となっている7点は、中学校と重なっている。『夏の庭 The Friends』は小学校上学年、中学校、高等学校と三校種とも上位となった。2000-2009年の10年間もそうであった。

遠藤周作の作品が2作上位となっているのが、高校の特徴である。その『沈黙』をはじめとして『人間失格』、『こころ』、『変身』の4作品は、1970年



代からずっと上位であり続けている。新しい作品が上位となってくることを期待したい。

どのような作品であるかについては、日本と世界の名作文学が多く、この年代から上位となった作品を含め、人間としての生き方をテーマとした作品が多い。

#### 1.4.3 考える読書 ノンフィクション(表11)

順位	作 品	入選対象回数
1	ヴィクトール・フランクル 著『夜と霧：ドイツ強制収容所の体験記録』	10
2	『もの食う人びと』(前出)	7
3	アンネ・フランク 著『アンネの日記』	3
4	姜尚中 著『悩む力』(新)	2
4	鎌田實 著『あきらめない』(新)	2
4	佐々淳子 著『エンジェルフライト 国際霊柩送還士』(新)	2
4	三浦しをん 著『神去なあなあ日常』(新)	2
4	『奇跡のリンゴ』(前出)	2
4	『わたしはマララ：教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』(前出)(新)	2
4	木藤亜也 著『1 リットルの涙 難病と闘い続ける少女 亜也の日記』	2
4	吉野源三郎 著『君たちはどう生きるか』	2
4	柳田邦男 著『犠牲サクリフェイス 牲 わが息子・脳死の11日』	2

2005年からフィクションとノンフィクションの類分けがなくなったために、高等学校では、2000-2009年の10年でもノンフィクション作品での入選が少なかった。この2010-2019年では前の10年よりも入選が少なくなった。高等学校における読書活動の実践からすると、特に岩波新書や中公新書などの新書による読書感想文を、教員が勧めていきたいものである。

どのような作品かということでは、生命と食と生き方を問う作品群である。

高等学校における自由読書と考える読書の関連について、自由読書における累計読書人数が3番目の『君の隣を食いたい』が、考える読書のフィクションにおいて(表10)以下で3回、4番目の『告白』が(表10)以下で1回の全国入選となっている。7番目の『永遠の0』が(表10)に記したように6回の全国入選となっている。これら三作品では、楽しむ読書としての自由な読書から、感想文を書く考える読書へと移行させた生徒がいたと考えられる。

## 2. 三校種縦断の状況

ここまでは小学校下学年、小学校上学年、中学校、高等学校と発達段階を四段階に分けて統計を提示してきた。以下では、校種を縦断した内容を提示していく。

### 2.1 読書そのものについて

2000年頃から朝の読書を毎日実施するように努力した中学校の成果が表れている。全国学校図書館協議会の調査(『学校図書館』誌2020年11月号にて公表)で、中学生の5月1ヶ月間の平均読書冊数は、1999年が1.7冊で2010年は4.2冊に上昇した。2010年代は4冊前後を維持し、2019年は4.7冊であった。また、5月1ヶ月に1冊も読書しなかった生徒は、1999年が48.0%で、2010年が12.7%まで減少し、2010年代は10%台で推移し2019年は12.5%であった。

「1 2010年から2019年までに児童生徒が読書した作品」のはじめに、学校教育に関連させた数点について概略を書いたように、10年間には、いろいろな出来事があったのだが、全国的に見て、特に中学生はよく読書したといえる。

高校生の5月1ヶ月間の平均読書冊数は、1998年が1.0冊で底であった。少しずつ上昇し2010年は1.9冊となった。しかし、2010年代には少しずつ減少し2019年は1.4冊となった。また、5月1ヶ月に1冊も読書しなかった生徒は、1998年が67.3%で、2010年代は50%を下回る年もあり2010年には44.3%であった。2010年代は50パーセント前後で推移し2019年は55.3%であった。

明治大学における「読書と豊かな人間性」科目を履修している学生の話からすると、高校生になると部活と受験勉強に忙しく、スマホ操作にも時間をかけてしまっているということである。なにより、中学校では朝の読書の時間があつたが、高校ではなかったという発表が多い。高校では朝の一斉読書の実施が難しければ、午後の授業開始前に一斉読書の時間を設定できるとよい。

読書の媒体では、電子端末による読書も進展している。毎日新聞社による読書調査<sup>6)</sup>として、2015年以後は電子端末による読書についての項目がある。その2019年の結果を見ていく。電子端末の種類はスマートフォンが圧倒的で、次いでタブレット端末、パソコンである。電子書籍を読んだことがある人は、30代が67%、20代が65%、10代後半(16歳以上)が61%であった。読んだジャンルについての複数回答では、漫画(コミック)、小説、雑誌、新聞という

順である。その利用頻度は、「ほぼ毎日」が21%、「少なくとも週に一度」が19%、「少なくとも月に一度」が21%であった。利用頻度の年代別では、10代後半と20代を合わせた若年層が30%であった。

上記調査の10代後半(16歳以上)というのは、高校生からということになるが、実情としては中学生と小学生にも進展している。今後は、学校の朝の読書でもタブレット端末による読書も予想できる。

紙媒体の読書では、中学校と高等学校でも絵本を配架する学校図書館が少しずつ増えてきている。生徒が読むのと同時に小学校あるいは幼稚園や保育所に行き行って読み聞かせをするという実践が多い。この先では、絵本の絵をよむ中学生、高校生の姿を期待したい。全国読書感想文コンクールの中学生のノンフィクションでは『いのちをいただく』だけではなく、その絵本版である『絵本 いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日』による全国入選も出てきている。

## 2.2 自由読書における読書作品モデル

2010年に小学校4年生であった児童の多くが、学年が上がるごとにどのような作品を読書していったのかについて、「自由読書」で読書数が最多であった作品でモデルを作ってみると、次のようになる。男女別に作品名を提示する。

調査結果の集計として読書数一番目の作品が単行本の場合は(単)とし、シリーズ物や続き物の作品の場合は(S)として示した。

2010年	小学4年	男子『かいけつゾロリ』(S)
		女子『〇〇レストラン』(S)
2011年	小学5年	男子『織田信長』(単)
		女子『〇〇レストラン』(S)
2012年	小学6年	男子『日本の歴史』(S)
		女子『謎解きはディナーのあとで』(S)
2013年	中学1年	男子『ハリー・ポッター』(S)
		女子『謎解きはディナーのあとで』(S)
2014年	中学2年	男子、女子とも『カゲロウデイズ』(S)
2015年	中学3年	男子『ソードアート・オンライン』(S)
		女子『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』(単)
2016年	高校1年	男子『ノーゲーム・ノーライフ』(S)
		女子1)『植物図鑑』(単)
2017年	高校2年	男子、女子とも『君の膵臓を食べたい』(単)
2018年	高校3年	男子『ソードアート・オンライン』(S)
		女子『君の膵臓を食べたい』(単)

1) この年度は5作品が「1校のみで大量の得票をしている」ということにて、それらは除外している。

このようなモデルは、「2011年に小学校4年生であった児童が…」というようにも提示することができるが、省略する。

モデルに提示した作品は、いずれもその年度ごとのヒット作品であり、シリーズ作品が多いが、単行本でも人気のヒット作があった。ただし、その年度限りか数年で読まれなくなる作品も数多くある。

2010-2019年の特徴としては、自由読書において『カゲロウデイズ』などのボーカロイド作品がヒットしたこと、「考える読書」において、『神様のカルテ』など生命について医療の作品が入ってきたことなどである。

## 2.3 中学校、高等学校における注目したい作家と作品

拙著『読書科からの希望の学習』(2014年 悠光堂)の第2章「21世紀初頭の児童生徒の読書」において、2000-2009年までの中学校と高等学校の考える読書のフィクションについて、次のように記した。

「考える読書 フィクションにおいて、中学校と高等学校では上位となった新しい作品が少なかったので、注目すべき作品、あるいは作者について触れておきたい。」(p.36)として、「最も注目すべきは重松清の作品である。」(同上)とした。

また、「入選対象は作品ごとでは1回なのだが、注目すべきは東野圭吾と横山秀夫である。」(同上)として二人の人気作家の作品ともうひとり医師の海堂尊の入選対象作品を紹介した。これは、「ミステリー作家の作品で中学・高校生が考える読書として感想文を書き、都道府県代表となっているという事実を多くの中・高校生に知ってもらいたいからである。」(同上)ということからであった。

中学生、高校生になると、気に入った作品の作者の他の作品をも読んでいくという傾向もあるので、2010-2019年の10年で4人の作家の作品はどうであったのかについて記す。

まず、重松清の作品『青い鳥』については、中学校の「考える読書 フィクション」の項にて記したとおりである。中学校では(表7)にて提示した以外に『きみの友達』と『きよしこ』が6回ずつ入選対象となっていて、『くちぶえ番長』と『ナイフ』が2回ずつの入選対象となっている。高校でも『青い鳥』以外に『その日の前に』が3回、『きみの町で』、『きみの友だち』、『また、次の春へ』、『十字架』がそれぞれ2回の入選対象となっている。複数回以上を取り上げた。

つぎに、東野圭吾、横山秀夫、海堂尊についてで

ある。東野圭吾の作品は、『手紙』が中学校で2回と高校で1回、『虹を操る少年』が高校で1回入選対象となっている。横山秀夫の作品は、『出口のない海』が中学校と高校で1回ずつ入選対象となっている。海堂尊の作品は、中学校と高校とも入選対象がなかった。

新たに2010-2019年の10年として注目したい作家は、堂場瞬一と誉田哲也である。堂場瞬一は『チーム』が中学校にて1回、『ヒート』が中学校にて2回の入選対象となっている。誉田哲也は『武士道シックスティーン』が中学校と高校で1回ずつ、『幸せの条件』が高校にて1回の入選対象となっている。

2010-2019年の10年については、女性作家を取り上げる。多くの入選対象作品があるのは、あさのあつこである。『バッテリー』が中学校にて第55回までに7回の入選対象となっていた。新たに、2010-2019年の10年について複数回以上としては『ランナー』が中学校にて4回、『ガールズ・ブルー』が高校にて2回、『金色の野辺に唄う』が高校にて3回の入選対象となっている。他には『敗者たちの季節』など8作が中学校もしくは高校にて1回の入選対象となっている。

注目は辻村深月と瀬尾まいこである。辻村深月は『かがみの孤城』が中学校にて3回、『朝が来る』が高校にて2回、『ツナグ』が中学校にて1回と高校にて2回の入選対象となっている。他には『島はぼくらと』など3作が中学校もしくは高校にて1回の入選対象となっている。

瀬尾まいこは『卵の緒』が中学校にて2回と高校にて1回の入選対象となり、『僕の明日を照らして』が中学校と高校ともに1回の入選対象となっている。『あと少し、もう少し』が中学校にて2回の入選対象となっている。他にも2作が中学校もしくは高校にて1回の入選対象となっている。辻村深月と瀬尾まいこについて、2010-2019年の10年についての入選対象作品について記した。

つぎには、読書を勧めたい作家についてである。女性作家として一般には人気のある宮部みゆきは、複数回以上の入選対象作はなく、『ステップ・ファーザー・ステップ』が中学校の2000-2009年に1回、『Ico-霧の城』が高等学校の2010-2019年に1回の入選対象となっているだけである。この『Ico-霧の城』は、ゲームソフト『ICO』が原作の作品である。宮部みゆきは、作品の幅が広い。特に中学生、高校生に勧めたいのは『火車』や『理由』、『レベル7』などの社会派作品である。そして『桜ほうさら』などの時代ものである。

時代もの、時代劇作品は中学、高校の教員が生徒に読書を勧めるとよい。例えば高田郁の『銀二貫』は、2010-2019年の10年間に中学校と高校ともに

1回の入選対象となっている。『八朔の雪』も特に女子生徒に勧めたい。

時代劇作家として著名な藤沢周平の『蝉しぐれ』は2000-2009年に高校にて2回の入選対象となっていた。山本周五郎の『さぶ』は第43回までに8回の入選対象となっていた。

時代もの、時代劇作品の自由読書はほとんどなく、全国読書感想文コンクールの全国入選もほとんどなくなってきた。人間の人間としての生き方には、時代を超えて変わらないものがある。上記にて名前を出した作家の作品は、中学校、高等学校の朝読書などの自由読書でも勧めていきたい。

### 3. まとめ:課題と提案

#### 3.1 課題

第一には、中学校と高等学校において司書教諭あるいは図書主任そして理科と数学の教員は、ノンフィクション、中でも自然科学分野の作品の読書を勧めてもらいたい。「1 2010年から2019年までに児童生徒が読書した作品」にて記したように自由読書では、自然科学系の作品はほとんどない。また、考える読書のノンフィクションでも自然科学分野の作品での全国入選はほとんどないのである。

2010年には根岸英一氏と鈴木章氏がノーベル化学賞を受賞し、2012年には山中伸弥氏がノーベル生理学・医学賞を受賞し、2014年に赤崎勇氏と天野浩氏がノーベル物理学賞を受賞し、その後もノーベル賞の受賞が続いた。受賞対象業績を中学生や高校生向けに解説した作品や受賞者の伝記作品の出版が期待される。

テレビドラマなどにて人気の芦田愛菜さんは、相当の読書家であり、彼女が読書したという、山中伸弥 聞き手・緑慎也『山中伸弥先生に人生とiPS細胞について聞いてみた』(ハードカバー 2012年10月 講談社)は、生徒に勧められる。生徒が朝の読書などにおいて自然科学分野の作品の読書を進め、その中から感想文を書く作品を選ぶことができるとよい。

第二には、高等学校の読書感想文コンクールについてである。都道府県段階の審査員は、過去において数多く入選の対象となっている作品については、その感想文を読んでから審査にあたった方がよいということを、強調しておきたい。当該の都道府県では新しい内容であっても、過去に他の都道府県で同じような内容の感想文があった場合には、代表にするのを避けるようにしていった方がよい。全国入選の感想文は、毎年『考える読書』として出版されている<sup>7)</sup>。審査する教員が読んでいなくとも、生徒の



方が読んでいるということがある。

### 3.2 全国読書感想文コンクールについての提案

第一には、新しい部門の設定についてである。現在は「小学校低学年(1年と2年)」、「小学校中学年(3年と4年)」、「小学校高学年(5年と6年)」、「中学校」、「高等学校」の部に分かれている。さらに、「大学1年・2年生と短大生、高等専門学校4年・5年生、高校卒業からの専門学校1年・2年生」の部を設定してはどうかという提案である。以前には「勤労青少年の部」があったが、第59回(2013年度)まででなくなった。高等学校卒業から20歳未満を対象とするとよい。大学への進学率が50%を超えており、特に受験が済んだ1年生と2年生及び同年齢者への読書奨励という意味を持たせたい。

第二には、新しい類の設定についてである。現在は課題図書と自由読書とに類分けされている。それにマンガの類を追加で設定してはどうかという提案である。

全国読書感想文コンクールの主催者である全国学校図書館協議会は、マンガの学校図書館への購入、配架について、選定基準を設定している。そのマンガは日本の文化の一つであり、朝日新聞社は手塚治虫文化賞を設定し、文化庁はメディア芸術祭にマンガ部門を設定している。どちらも1997年からである。

現在でも、全国読書感想文コンクールの対象図書のうち、自由読書においてマンガの除外規定はない。これまでも、第54回(2008年度)の小学校中学年の部において、『学研 まんがでよくわかるシリーズ 大豆のひみつ』(橘悠紀 構成/山口育孝 漫画)による感想文が全国入選となっている。また、第51回(2005年度)の小学校高学年の部において『学習漫画世界の伝記 ヘレン・ケラー』(加覧俊吉 監修/森有子 作)による感想文が全国入選となっている。加えて先に記したように第64回(2018年度)コンクールの中学校の部において『君たちはどう生きるか』のマンガ版が2回の入選対象となっている。

オリジナルのストーリーマンガをも含めた新しい類を設定したい。

朝の読書においてはマンガ読書も認めていきたい。

### 注

1) 1955年から1999年までの集計は、小学校下学年については拙著『小学校児童の絵本読書指導論』(2005年 高文堂出版社)、小学校上学年、中学生、高校生については『小学校上学年児童から中学生の読書の研究—付論 戦後の高校生が読書してきた作品』(2019年 現代図書)に収録してある。2000年から2009年までの10年分の集計は三校種と

もに『読書科からの希望の学習』(2014年 悠光堂)に収録してある。

- 2) 全国読書感想文コンクールでは、2005年度の第51回コンクールからは、それまで「自由読書」はフィクションの1類とノンフィクションの2類という類分けをしていたのだが、その区別をなくし「自由読書」と「課題読書」との類分けとなった。ただし、本稿では、フィクションとノンフィクションに筆者が分けて集計し、論じている。
- 3) 「複数の巻からなるもの」という注記は、全国学校図書館協議会の注記に従ったものである。小学校上学年の自由読書にて11番目の読書数となった『三国志』は、通常にはその注記のように複数の巻からなっているのであるが、出版の状況あるいは読書感想文コンクールの結果からみると、複数以上の作者のものが、読書対象になっていることが分かる。また、自由読書の場合にはマンガ版の読書も考えられる。
- 4) 小学生を対象とした『日本の歴史』という単行本はない。全国学校図書館協議会は、第55回・2009年調査から「複数の巻からなるもの」という注を付けた。1986年の調査解説者であった東海林典子(当時、トキワ松学園司書教諭)は、書店に行き、『日本の歴史』の9割がマンガ版であることを確認し、解説している(『学校図書館速報版』1986年10月25日)。学習マンガとして、複数以上の出版社から出ていて、複数以上の巻数で構成されている。小学館や集英社などから出版されていて、歴史学者が監修している例もある。したがって、特に小学生向けということではない。明治大学における「読書と豊かな人間性」科目の履修者の話では、大学受験に向けて読んだという学生が、これまでに複数名以上いたのである。
- 5) ボーカロイドは、ヤマハが開発した歌声合成技術及びそのソフトである。本稿でのほか、『学校図書館』誌上の調査結果として挙がってきた中では、noprops 原作/黒田研二 著『青鬼』(シリーズ)などがボカロ小説作品である。
- 6) 毎日新聞社の調査であり、『読書世論調査2020年版』(2020年4月 毎日新聞東京本社)による。全国を大都市(東京23区と政令指定都市)、中都市(人口20万人以上の市)、小都市(人口20万人未満の市)、町村部に層別化し、300地点の男女計3600人に、調査票にて郵送による。有効回答は2165人、60%である。調査時期は2019年7月の発送で、9月3日までの回答であった。(『同書』p.10-p.11)
- 7) 『考える読書』は、第60回からは、それまで分冊であったものが一冊にまとめた出版となった。購入しやすくなったので、学校図書館にて備えるるとよい。